職業病予防における個人曝露評価の重要性

元 産業医科大学教授　熊谷 信二

　産業現場における化学物質曝露による健康障害は古くて新しい問題である。2010年以降でも、1,2-ジクロロプロパン曝露による胆管がん（2012年）、塗料剥離作業における鉛中毒（2014年）　、オルトトルイジン曝露による膀胱がん（2015年）　、有機粉じん（架橋型アクリル酸系水溶性高分子化合物）曝露による肺疾患（2017年）というように、２年に１回程度の頻度で、新しいタイプの職業病が発生している。本講演では、職業病予防における個人曝露濃度の評価の重要性を説明するとともに、個人曝露濃度の変動に関する知見および日本産業衛生学会・産業衛生技術部会の個人曝露評価法について紹介する。